

平成18年度 伊丹市行政評価 ～施策評価編～

施策コード	1302	施策名	福祉のまちづくりの推進
-------	------	-----	-------------

「これから5年間のまちづくりプラン」における位置付け	視 点		項 目	
	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現		きめ細かな地域福祉の推進	

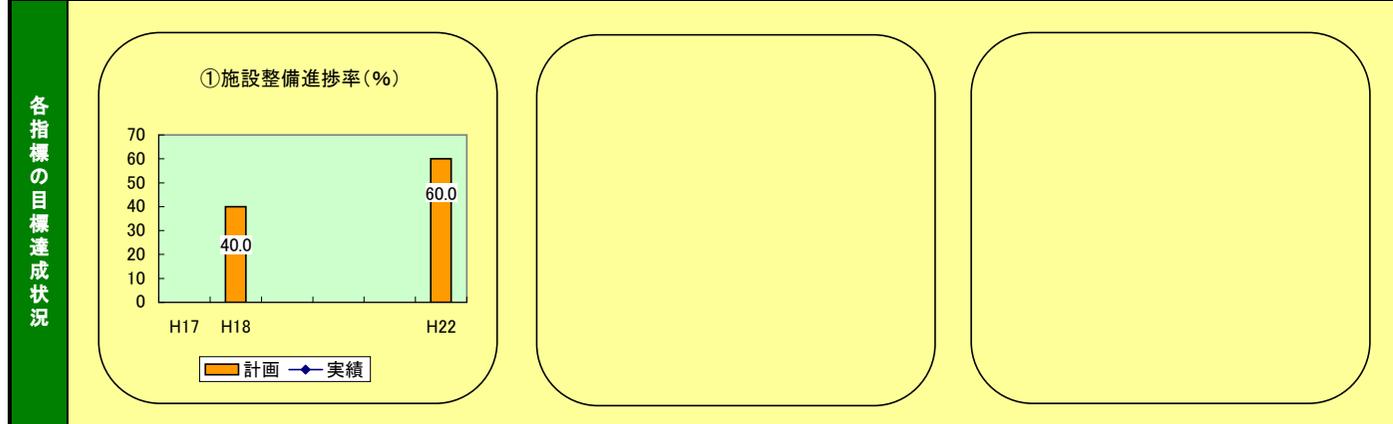
評価担当部局名	健康福祉部		関連部局	教育委員会生涯学習部・消防局		事業費合計(百万円)	H17(決算) 6.7	H18(予算) 28.5
---------	-------	--	------	----------------	--	------------	----------------	-----------------

目指すべき目標・状態	道路、建物、公共交通機関などのバリアフリー化整備に取り組み、全ての市民に使いやすいまちづくりに視点をおいた「ユニバーサル社会の形成」を目指していくが、当面は福祉のまちづくり重点地区における施設整備の促進を図る。							
------------	---	--	--	--	--	--	--	--

施策を取り巻く環境	兵庫県の「福祉のまちづくり条例」及び本市の「福祉のまちづくりのための都市施設整備要綱」に基づき4つの重点地区内の整備を行うことが必要であるが、実績が伸びておらず促進を図っていかなければならない。							
-----------	---	--	--	--	--	--	--	--

成果を測定する指標 <small>(上げた方が良い指標の場合「↑」、下げた方が良い指標の場合「↓」を指標名の右側に記載。H22年度計画値欄は、それ以前に終期を迎えるものはその年度の計画値。)</small>	指標名(単位)	算式等	現状(H17年度)	H18年度		H22年度	計画達成率(%)	
				計画値	実績値	計画値		
①	施設整備進捗率(%)	↑	福祉のまちづくり重点地区内における建築物、道路、公園の整備状況を指標とする。(整備完了施設数/整備対象件数×100)	-	40.0	-	60.0	-
②								-
③								-

評価結果	19年度から実施します。	評価の判断理由	施策全体の評価については、今年度設定した施策目標・成果指標の達成状況などを実績に基づき総合的に判断して行うこととなります。今年度は、評価実施初年度でそうした実績に基づく評価ができないため、来年度から評価を実施することとしています。				
------	--------------	---------	---	--	--	--	--



実施している事務事業と評価結果

No.	事務事業名				評価結果
	活動指標(単位)	H17計画値	H17実績値	H18計画値	
①	鉄道駅舎バリアフリー化推進事業 市内鉄道駅舎のバリアフリー化率(%)				A
②	福祉のまちづくり民間施設改修補助事業 助成件数(件)				C
③	【未実施】公民館バリアフリー化事業 進捗率(%)				B
④	【未実施】消防局庁舎バリアフリー化事業 バリアフリー化工事実施対象施設(施設)				A
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
⑪					
⑫					
⑬					
⑭					
⑮					

※事務事業名に【新規】の表記がある事業はH18年度開始事業、【未実施】の表記がある事業はH19年度以降に開始予定の事業です。

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	130201		担当部局・課	健康福祉部 障害福祉課					
事務事業名	鉄道駅舎バリアフリー化推進事業								
事業内容	交通バリアフリー法に基づき交通事業者がエレベータ設置、スロープの設置等を整備する事業に対して補助を実施する。			事業開始(予定)年度 平成14年度					
				事業終了(予定)年度 平成18年度					
この事業の上位施策	これから5年間のまちづくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現						
		項目	きめ細かな地域福祉の推進						
		施策	福祉のまちづくりの推進						
⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。									
事業の目的	障害者や高齢者の方などすべての人が、鉄道駅舎を容易に利用できるために、エレベータの設置やスロープの設置等のバリアフリー化を行う。			予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。) (款) 民生費 (項) 社会福祉費 (事項) 地域福祉対策費 (目) 社会福祉総務費					
事業費等の概算	平成17年度(決算)			平成18年度(予算)					
	事業費	6,683千円	財源内訳		事業費	27,789千円			
			国・県補助金等	—			国・県補助金等	—	
			市債	—			市債	—	
			その他(使用料等)	—			その他(使用料等)	—	
			一般財源(市税等)	6,683千円	一般財源(市税等)	27,789千円			
投入人員	0.23人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)		投入人員	0.23人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)			
人件費	1,970千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。		人件費	1,970千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。			
経費合計	8,653千円		経費合計	29,759千円					
活動指標	指標名(単位)	市内鉄道駅舎のバリアフリー化率(%)			計画と実績	年度	H17年度	H18年度	
	意味・算式等	市内全鉄道駅舎に対するバリアフリー化されている鉄道駅舎の割合				区分	計画値	60	100
						実績値	60		

評価結果	A
	上位施策に対する貢献度は高く、現行のまま継続する。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	130202							
事務事業名	福祉のまちづくり民間施設改修補助事業	担当部局・課 健康福祉部 障害福祉課						
事業内容	障害者や高齢者等の利用に配慮した整備を要する民間施設のうち資金的制約等により改修が困難な中小企業等の施設改修費用の一部を助成する。							
	事業開始(予定)年度	平成12年度						
	事業終了(予定)年度	—						
この事業の上位施策	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現						
	項目	きめ細かな地域福祉の推進						
	施策	福祉のまちづくりの推進						
⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。								
事業の目的	障害者や高齢者をはじめ、すべての市民が日常的に利用する公共の施設・生活利便施設やその周辺の道路などを安全で快適に利用し移動できるよう、福祉のまちづくりの核となる地区を整備するとともに、市全域において官・民建築物や道路・公園など施設のバリアフリー化を行う。	予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。) (款) 民生費 (項) 社会福祉費 (事項) 地域福祉対策費 (目) 社会福祉総務費						
事業費等の概算	平成17年度(決算)		平成18年度(予算)					
	事業費	財源内訳		事業費	財源内訳			
		国・県補助金等	—		国・県補助金等	375千円		
		市債	—		市債	—		
		その他(使用料等)	—		その他(使用料等)	—		
	一般財源(市税等)	—	一般財源(市税等)	375千円				
	投入人員	0.22人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)	投入人員	0.22人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)		
人件費	1,885千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。	人件費	1,885千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。			
経費合計	1,885千円		経費合計	2,635千円				
活動指標	指標名(単位)	助成件数(件)		計画と実績	年度	H17年度	H18年度	
	意味・算式等	民間施設改修補助した件数			区分	計画値	1	1
					実績値	—	—	

評価結果	C
	上位施策に対する貢献度はやや低く、より効率的・効果的な事業のあり方について検討が必要。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード		130203		担当部局・課		教育委員会生涯学習部 公民館			
事務事業名		【未実施】公民館バリアフリー化事業				事業開始(予定)年度 平成19年度			
事業内容		当該施設既存エレベーターは、間口奥行きとも小寸法の小型機であり、車椅子の利用者が介助者なしでは利用できない状況にある。また、設置後33年が経過し、制御系機器等の老朽化が進行しており改善を求められている。公民館のバリアフリー化を推進するため、エレベーターの更新を行う。				事業終了(予定)年度 平成19年度			
この事業の上位施策		視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現						
		項目	きめ細かな地域福祉の推進						
		施策	福祉のまちづくりの推進						
		⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。							
事業の目的		バリアフリー化のためのエレベーター更新		予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)		(款) 教育費 (項) 社会教育費 (事項) 公民館管理運営費 (目) 公民館費			
		平成17年度(決算)			平成18年度(予算)				
事業費等の概算		平成19年度以降に開始を予定している事業です。 「これから5年間のまちづくりプラン」において、事業として計画上の位置付けがあることから、評価対象事業としています。 実績に基づく評価はできないため、施策目標の達成に向けた現時点での相対的な重要度や、貢献度の判断に基づいて評価を実施しています。							
活動指標		指標名(単位)	進捗率(%)			計画と実績	年度	H17年度	H18年度
		意味・算式等	エレベーターの更新工事進捗率				区分		
							計画値	-	-
						実績値	-	-	

評価結果	B
	現時点で想定される上位施策に対する貢献度は他の事業と比較してやや高い。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	130204										
事務事業名	【未実施】 消防局庁舎バリアフリー化事業	担当部局・課 消防局 消防総務課									
事業内容	消防局が管理運営する施設の新・改築等に合わせ、施設のバリアフリー化を促進する										
	事業開始(予定)年度 平成22年度	事業終了(予定)年度 平成22年度									
この事業の上位施策	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現									
	項目	きめ細かな地域福祉の推進									
	施策	福祉のまちづくりの推進									
⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。											
事業の目的	県福祉のまちづくり条例に基づき、消防局が管理運営する施設について、高齢者等（高齢者・心身障害者その他心身機能の低下した者）が安全かつ快適に利用できるよう努め、県が実施する福祉のまちづくりに関する施策に協力するため	<table border="1"> <tr> <td>予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)</td> <td>(款) —</td> <td>(事項) —</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(項) —</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>(目) —</td> <td></td> </tr> </table>	予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)	(款) —	(事項) —		(項) —			(目) —	
予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)	(款) —	(事項) —									
	(項) —										
	(目) —										
事業費等の概算	平成17年度(決算)	平成18年度(予算)									
	平成19年度以降に開始を予定している事業です。 「これから5年間のまちづくりプラン」において、事業として計画上の位置付けがあることから、評価対象事業としています。 実績に基づく評価はできないため、施策目標の達成に向けた現時点での相対的な重要度や、貢献度の判断に基づいて評価を実施しています。										
活動指標	指標名(単位)	バリアフリー化工事実施対象施設(施設)	計画と実績	年度	H17年度	H18年度					
	意味・算式等	施設数		区分	計画値	—	—				
				実績値	—	—					

評価結果	A
	現時点で想定される上位施策に対する貢献度は他の事業と比較して高い。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。